

400年前に 有馬のセミナリヨで 歌われていた歌を再現

ゆるキャラが大集合。
今回、フェスティバスタタリスのイメージキャラクター(写真中央)を制作。
名前は選考の結果、「アリマーノはるのぶっち」に決定しました。



12月3日にフェスティバスタタリス2011が、有馬小学校(北有馬町)で行われました。
フェスティバスタタリスとはラテン語で「クリスマスのお祭り」という意味。今回で15回目を迎えました。
夜になると、南蛮行列がセミナリヨ跡をスタートし、会場の有馬小学校を目指しました。
ステージでは聖歌隊が400年前に有馬のセミナリヨで歌われていた歌を再現。子どもたちの歌声が、北有馬の冬の夜空に響き渡りました。



始発駅「かづさ」より 夢をのせて

11月20日に第20回かづさ夢・手づくりふれあい祭りが、旧島鉄加津佐駅周辺で実施されました。
「始発駅かづさより夢をのせて」をテーマに、各種イベントを開催。最初に、夢みこし・子どもみこしが巡行し、会場を盛り上げました。
魚のつかみ取りでは、子どもたちが寒さにも負けず、勢いよくいけすに入っていました。中でも5キロのブリが大物だったようです。
会場には九州場所所で幕内昇進した大相撲力士佐田の富士関のコーナーも設けられていました。

南島原の秋の味覚を満喫

ろくべえ大食い19杯完食

11月27日に深江町産業まつりが、深江ふるさと伝承館で行われました。同まつりは今回で28回目の開催。当日は車エビや長崎和牛のコーナーが設けられ、長蛇の列が目立ちました。
また、ご当地グルメと銘打った市特産品のそうめんを使った「カレーそうめん」も披露されました。



ステージではろくべえ大食い日本一決定戦があり、一般の部の優勝者は2分間の制限時間内に19杯(約1キロ)をペロッと平らげました。



口之津港開港450年を契機に ポルトガルとの関わり再び

ポルトガル大使が南島原市を訪問



12月2日に在日ポルトガル大使館のジョゼ・デ・フレイタス・フェラス大使が市長を表敬訪問しました。

これは今年、口之津港開港450年を記念式典にポルトガルの協力を依頼。フェラス大使が式典の前

一度、南島原市を訪れた意向が実現しました。

フェラス大使は懇談で「南島原市と協力したいイベントにしたい」と話しました。その後、口之津歴史民俗資料館や南蛮船来航の地などを見学。また、3日には冬のお祭りの「フェスティバスタタリス」にも出席し、あいさつしました。

口之津港開港450年を契機に、ポルトガルとの関わりが復活しました。



全国から約1200人が参加

第2回南島原植樹

11月23日に南島原植樹を南有馬町上原で実施しました。この取り組みはイオン環境財団と南島原市との共催事業。平成22年度が初年度で、3年間で植樹し、その後2年間育成管理する5年計画になっています。

当日は早朝から雷雨で実施が危ぶまれましたが、開催時間の9時30分ごろに天気回復。今回は全国各地から約1,200人の参加があり、遠くは中国からも参加いただきました。植樹面積は約5・7ヘクタールに、ケヤキ、コナラやクヌギなど12種の苗を1万6千本植樹しました。

この2年間で13ヘクタールに、3万6千本植えたことになりました。

市の貴重な資産となる森が、皆さんの活動で整いつつあります。

次回は平成24年11月23日(金・祝日)に開催決定しています。



大相撲力士 佐田の富士関がパレード

大相撲九州場所8勝7敗の勝ち越し

大相撲力士佐田の富士関が新入幕の大相撲九州場所8勝7敗と勝ち越しました。

11月28日には後援会関係者らと市長に結果報告。29日には地元加津佐町の温泉神社で参拝した後、若木保育園を訪問しました。佐田の富士関が登場すると、子どもたちは「おめでとございます」とあいさつ。中には抱っこをお願いしたり、レクリエーションをしたりして、とても楽しい時間を過ごしました。加津佐の商店街には、島原半島初の幕内力士となった、佐田の富士関を一目見ようと多くのファンが詰め掛けていました。



佐田の富士関は1時間掛けて練り歩き、一人ひとりに笑顔で握手や記念撮影に応じ、「1月場所(東京)では2桁勝利をします」と誓いました。
市民の皆さんの応援をよろしく願います。